

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成28年6月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204201		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 桐壺の家		
所在地	広島県広島市西区己斐中二丁目12-21 (電話) 082-271-8885		
自己評価作成日	平成28年6月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204201-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204201-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年7月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設内は明るく清潔で落ち着いた雰囲気を大切にして、食事管理も栄養士の指導のもと提供しています。栄養や味だけでなく見た目の良い盛り付けをし、手作りの料理で食事を楽しんで頂けるよう配慮しています。食事前の嚥下体操やレクリエーションや季節のイベント等も積極的に行っている他、地域交流を深めるため運営推進会議をしっかりと行い、地域行事や集会にも利用者様いつも参加させて頂いています。医師による往診や看護師もおり、緊急時にはすぐに対応できる等、利用者様に安心した生活を送って頂ける体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者が落ち着いて過ごせるように、職員は慌ただしく動き回らないよう気を付けている。地域行事や幼稚園との交流には、出来るだけ参加するようにし、介護度の高い方も介護タクシーを利用し、多くの利用者が行事に参加できるよう配慮している。昼食後は、ゲームなどのレクリエーションを毎日行い、利用者と一緒に楽しんでいる。毎月の職員会議では、活発な意見交換が行われ、業務変更など改善に取り組み、毎月の職員目標を立て取り組んでいる。母体の医療機関の医師・看護師と協力し、利用者が安心して生活できるように取り組んでいる。なお、家族の要望があれば看取りを行う方針であり、今年度も3例の事例がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念については、毎朝申し送りにて職員全員で唱和し、意識を高めている。職員で話し合い、事業所独自の目標も設定し、日々の実践に繋げるよう取り組んでいる。また、その年、その日ごとに目標を設定し、達成に向けて協力している。	法人理念を毎朝の申し送り時に職員全員で唱和し、理念を共有している。	理念を共有する取り組みが、今のところ少ないようである。職員との話し合いで、法人理念を基に年間目標を設定し、職員全員で取り組まれることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の開催の際には挨拶をして、顔馴染みの関係作りに努めている。町内会にも加入して、交流を深めるため、ご近所の方や民生委員の方に教えて頂く等、協力して頂いている。出来るだけ地域行事に利用者と参加し、交流を図っている。	町内会に加入し、職員は清掃活動に積極的に参加している。盆踊りや高齢者の集い、運動会などの地域行事に利用者が参加し、地域住民と交流している。地域の幼稚園とも定期的な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく、地域の方にも声掛けをして安心して頂けるよう努めている。運営推進会議で話をする等しており、ご近所の方より要望、苦情に対してはすぐに取りかかって対処している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、地域の方、民生委員、地域包括支援センター職員が出席し定期的に開催している。ホーム内の報告、地域の方より情報を頂き、地域イベントに参加している。また、報告や情報のみでなく、ご家族や参加者より意見を頂き、具体的に活かすことで改善への取り組みを行っている。	運営推進会議では、活発な意見交換がされ、提案された案件に関しては、職員会議で検討している。出席者からの提案により、「ヒヤリ・ハット」の検討、ホームの周りの美化に取り組み、樹木の手入れや花を植えた。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営やサービス内容、苦情、相談等を積極的に伝え、疑問に思う事を問い合わせたりすることで協力関係を築いている。	運営推進会議に出席している地域包括支援センター職員と意見交換し、時には利用者の介護相談を行っている。区社会福祉協議会主催の「認知症家族の会」に出席し、意見交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的な研修や勉強会にて、利用者が受ける身体的・精神的苦痛について、職員全員が正しく理解できるように取り組んでいる。また、外出したい時には行動を抑制するのではなく、職員が付き添い安全面にも配慮している。警備センサーを導入することにより、目の届かない場所も察知でき、鍵をかけない暮らしを支援している。</p>	<p>「身体拘束をしないケア」について、毎年、職員研修を行い、職員の意識統一を図っている。「身体拘束について」のホームの方針を、文書で家族に明示している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修には積極的に参加し、職員全員が理解浸透出来るように、勉強会やミーティングを行っている。早期発見、防止を徹底し、管理者は、職員の疲労やストレスがサービスに影響しないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対応が必要な利用者がある場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、利用者やご家族へ制度についての情報提供を行う事で支援に結び付けている。外部研修を利用し、受講することで理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用前には何度でも見学に来て頂く事が出来、実際の様子を見て頂くことで安心して利用できる体制を作っている。契約については、料金面、重度化、看取り、リスク等、丁寧に説明し、同意を得ようとしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>御家族様には、定期的には手紙を送り、様子をお知らせしている。面会時には、日々の様子をお話することで、コミュニケーションを図っている。また、何でも話せるよう雰囲気作りにも配慮している。意見や要望については、申し送りノートに「意見・要望」の欄を設け、職員で把握、対応できるようにしている。相談窓口も設置しており、いつでも対応できる体制を作っている。</p>	<p>ホームでの利用者の生活状況を手紙で、家族に報告している。面会時に家族の意見を聞いている。家族の意見により、利用者の水分補給に関して、各利用者の摂取量などに注意を払い対応している。</p>	n

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、コミュニケーションを図り、意見や気付きを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。場合によっては、個別に話をするなどしている。また、ミーティングや勉強会で発表の場を設け、管理者を通じて代表者へ随時報告をし、運営に関する事項について決定がなされている。	月に1回、職員会議を行い、活発な意見交換を行っている。また、会議では月間目標を決め、取り組んでいる。職員の意見により、夜間業務を見直し、利用者のコップ消毒を行うようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩時間、場所を設けている。また、職員同士の人間関係も把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修に、職員が受講できるようにしている。研修終了後は、報告書を全ての職員が閲覧している。新人の職員が入社した際には、先輩職員が付き、指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会や外部研修へ参加した際には、意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り、質の向上とケアに活かしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学時や利用開始時に、ご本人・ご家族より話を聞き、心身の状態や本人の思いに向き合っている。希望があれば利用開始前にお会いしに出向き、お話を伺うようにしている。情報も確認し、職員全員で把握するようにしている。職員も、受け入れられるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に家族と話し、家族が求めている事や不安に思っていること、これまでの経緯を受け止め、関係が築けるようにしている。ご家族の面会の際には、近況を伝えたり、ご家族からの意見も伺いながら、コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や家族の思い、状況を確認して信頼関係を築きながら、出来る限り改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な場合には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的なサービスにならず、人生の先輩であるという思いを職員が共有している。支援する側・される側という意識を持たず、協働しながら生活が出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子や状態を面会時や場合によっては電話でこまめに報告するとともに、本人と一緒に支える為に家族と同じような思いで支援しているという事を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの生活の延長線上であるよう、手紙や電話等で関係が継続出来るよう支援している。友人の訪問もあり、美容院やお墓参りなど続けておられる方もいる。家族の協力もあり、外食など行きたい場所にも出かけておられる。	今まで利用していた美容院や馴染みの店に職員が同行し、利用の継続を支援している。利用者が書いた手紙を投函したり、家族に手渡しする支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず、暮らしを楽しめるよう支援している。また、利用者同士の関係性について申し送り等を使って情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談窓口を設け、利用が終了してからも、その後の支援に応じる姿勢を示している。これまでの生活の継続性が損なわれないように、生活環境や支援内容、注意点等について細かい連携を心掛けている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてアセスメントを行い、日々の気付きは申し送りを行っている。思いや意思を日常の言動や表情から汲み取るように心がけている。コミュニケーションを密にし、家族からも情報を得るようにしている。	日常会話から得られた利用者の思いや意向は、申送りやミーティングで報告され職員間で情報を共有している。今までの経験を活かして、ホームの行事で「たこ焼き」を作り、皆で楽しんだ事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画を活用し、本人や家族の協力を得て、これまでの暮らしが継続出来るように支援している。聞き取りや、以前利用の病院や施設から情報を集め、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、職員全員が把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行っている。職員全員でモニタリング、カンファレンスを行い、状況に応じて見直しをしている。本人、ご家族の思いが反映されるものとなるよう努めている。</p>	<p>ケアプラン作成者は、職員と共同でアセスメント・モニタリングの原案を作成している。その後、ケアカンファレンスで、他の職員や医師の意見を基にケアプランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りにて利用者の変化を確認し、その都度記録している。申し送りノートには、重要事項を全て記載し、職員間で共有しながらケアに当たっている。定期的カンファレンス会議を行い、介護計画に反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族の要望に向き合い、柔軟に対応している。その方の状態や状況に応じて同系列の老人保健施設や協力的病院への転院が出来る等の対応をしている。また、ご家族が宿泊されたり、食事の提供も行っており、ご家族と外泊、外出される方もいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう、各機関と意見交換出来るようしている。運営推進会議も利用し、協力を得たり、町内のお店や美容院を利用するなどして、関係を築いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>これまでのかかりつけや、希望に応じた医療機関へ受診している。また、医師の往診、24時間受け入れ可能な協力的病院（舟入病院）各医療機関関係者の確保（外科、内科、皮膚科、歯科など）により、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて、職員も付き添い、状態の説明も行っている。</p>	<p>ホームの協力医は、週に2回往診し、利用者の健康状況を把握している。利用者・家族の要望で、今までのかかりつけ医を受診している方もいる。体調不良時には、看護師に連絡し、医師の指示に従っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約により、日常の健康面や医療面について対応、相談、助言を行ってもらっている。職員と看護師が情報を共有し、対応できる体制を取り、薬や医療面での勉強会も行うなど、協働体制を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、利用者に関する情報を医療機関へ提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関の相談員とその時の状況を聞き、話し合いながらスムーズな退院につながるよう、支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始時に、家族、医師、職員等関わるチーム全体で話し合いを行っている。事業所で対応が可能な事、困難な事、不安な事などを連携病院や協力病院と情報交換しながら、最期までその人らしくあるよう支援している。本人や家族の意向を踏まえ、主治医と相談しながら終末期に向けた、体制を取っている。</p>	<p>ホームとしては、家族の要望があれば看取りを行う方針である。毎年度、家族の意向の確認を行っている。重度化した際には、家族の意向を確認し、医師と相談し、対応している。今年度看取りの事例が3例ある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林医師、光井医師、看護師の指示のもと、全職員が対応できるように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に対応できる技術を身につけるよう取り組んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の協力を得て、年2回、利用者と共に訓練を行っている。避難経路の確認、消火器の使い方を指導して頂き、設備の点検も定期的に行っている。防災大会への参加、町内会での避難訓練にも積極的に参加しており、町内会を通じて、災害時の避難場所の確認を行い、災害などが起きたときの協力を得ている。</p>	<p>年2回、消防署立ち合いの下、避難訓練を行い、市防災センターでの防災研修に職員が参加している。毎年、院内研修で災害対策・避難訓練について確認している。災害時には、町内会を通じて協力を得られる体制が出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助の際の言葉掛けは丁寧に、本人の気持ちを考え、さりげないケアを心掛けている。自尊心を傷つけることなく配慮した対応を職員全員で徹底している。プライバシーに関してはマニュアルの見直し、勉強会を行い、個人情報が外部に漏れることがないように注意を払っている。	接遇研修を毎年行い、職員間で注意しあって、丁寧な言葉を使う取り組みを行っている。利用者の個人情報や介護情報を外部に漏らさないように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々に合わせた説明を行いながら、希望や願いを引き出せるような支援を行っている。自己決定しやすい声掛けにも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、その日、その時の体調や気持ちを汲み取るよう支援している。基本的な流れはあるが、出来るだけ個別性のあるケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性、好みに合わせた身だしなみが出来るよう心掛けている。季節感や清潔感にも配慮し、支援している。毎月の理美容では、カットやカラーなど、希望に合わせて出来るよう取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事に関するアンケートを行い、好みや苦手な物を把握するとともに献立に活用している。管理栄養士を中心に栄養バランスを計画、手作りを徹底し、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。食後の後片付けや準備などもやりがいを持ってされている方もいる。	食事の献立は管理栄養士により作成されている。毎年アンケートを行い、利用者の要望を反映している。週3回、ホーム独自のおやつを提供している。利用者毎に役割分担を決め、テーブル拭きなどを一緒に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調と摂取量を把握し、個々に合わせ主食をお粥にしたり、副食を刻んだり、管理栄養士を中心に、献立の栄養バランスにも配慮している。食事以外の水分補給を行い、水分摂取が出来るようしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後のうがいと歯磨き、義歯洗浄の口腔の清潔保持は日常的に行っている。利用者によっては、ガーゼやスポンジを使って口腔ケアを行い、肺炎防止にも努めている。食事前には口腔体操を行い、治療が必要であれば歯科往診も利用している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を利用し、排泄パターンを把握し、身体状況に応じて出来るところは見守り、自尊心に配慮して、さりげなくカバーが出来るように支援している。また、言動などからも排泄のサインを読み取り、誘導できるよう心掛けている。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用者が失敗をしないよう誘導する際には、自尊心に配慮した声掛けを行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状況を見直し、家族とも相談しながら、自然排便を促すよう働きかけている。必要であれば、無理のない下剤や浣腸等の検討もしている。散歩や、体操、水分補給で改善を図っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>職員のペースに合わせず、利用者の希望に沿った曜日、時間帯で入浴を支援している。入浴前にはバイタルチェックを行い、安全に楽しみな時間となるように健康面での配慮にも気を配っている。不安や恐怖心を持たない見守りや介助に心掛けている。</p>	<p>週2回、午前中に入浴するようにし、利用者の要望で曜日・時間を決めている。利用者の身体状況をチェックし、安全に入浴できるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	自然な生活リズムが整えられるよ う、日中活動の促しを通じて支 援している。ゆっくりと休息や睡 眠が取れるよう配慮し、睡眠導 入剤を服用される場合には、睡 眠状態、ご家族等の希望を聞 き、主治医に相談のもと調整し ている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	理事長、主治医、看護師による 薬についての勉強会を行い、副 作用、用法、用量について理解 に努めている。職員は、個々の 内服薬を把握できるように一 覧をファイルにて管理している。 服薬時には、確実に手渡しをし 、きちんと服薬されているかの 確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を 最大限に活かして、自分らしく 暮らせるように、一人ひとりの 生活歴を把握し、経験や知恵を 発揮できる場面を作っている。 以前の職業などを活かしたレク レーション、利用者様の得意な ことを活かしたレクレーション、 ボランティア活動や散歩、季節 の行事、買い物などで、楽しめ る時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	外出が困難と決めつけず、重度 の方でも外出が出来るように、 介護タクシーを利用する等、家 族の協力も頂きながら希望に沿 った支援を行っている。個別の 外出についても、ご家族と相談 、協力を頂き、実現できるよう 支援している。	地域行事や幼稚園との交流には 、出来るだけ参加するようにし ている。また、行事には、介護 タクシーを利用し、介護度の高 い方でも参加できるように配 慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	所持金は居室内での紛失防止や トラブル防止のために原則とし て、施設で管理している。買物 は利用者様の依頼で行い、社 会生活の維持に繋がるよう支 援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>日常の手紙、暑中見舞いや年賀状を出すなど、プライバシーに配慮しながら希望に応じて生活の中で電話をしたり、手紙を書く支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関には、季節に合った花や飾りを取り入れ、入り易い雰囲気にはしている。外の景色も見え、季節感を感じる事も出来る。キッチンは利用者に安全に使用できるものとなっており、トイレは車椅子でも出入りが出来るようになっている。照明も落ち着いた色にし、空調にも気を配っている。</p>	<p>ホームの庭で咲いた花をリビングや玄関に飾り、利用者が落ち着いて生活できるように配慮している。常に室内を清潔に保つように、掃除に力を入れ実行している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個室で一人になれる空間と、フロアで他の利用者と自由に過ごせる空間を設け、フロアではソファや椅子を置き、くつろいで頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>落ち着いて過ごせるように、新しい物をそろえるのではなく、今まで使われていた馴染みのある物を持ち込んで頂くように説明をしている。心地よく過ごせる空間づくりを行っている。これまでの生活が、環境が変わっても継続出来るよう支援している。</p>	<p>今まで自宅で利用していた物を居室に設置し、居心地よく過ごせるように、それぞれの利用者が工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手摺や階段に滑り止めを設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて、危険の防止や自分の力を活かして動けるように、物の配置にも配慮している。状態が変わり混乱が生じた時には、話し合いを行い、不安を取り除くようしている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほほ全ての利用者の</li> <li>②利用者の3分の2くらいの</li> <li>③利用者の3分の1くらいの</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほほ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほほ全ての利用者が</li> <li>●利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほほ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>●利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほほ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほほ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほほ全ての家族と</li> <li>●家族の3分の2くらいと</li> <li>③家族の3分の1くらいと</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ●数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ●大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ●職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ●利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ●家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム桐壺の家

作成日 平成28年8月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	介護スタッフのレベルにばらつきがあり、目先の業務に追われる傾向が見られる。	今以上に入居者様の気持ちや考えに寄り添ったケアを行う事を目指す。	申し送りでの情報伝達共有の強化、施設内研修や施設外研修参加を行う。	1年以内
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。